

勝林寺寺報

間に聞く



「昔には、朝には朝の音があった。季節には季節それぞれの音があった。それがどうですか。今は、それらがみんな消えてなくなつて、朝でも昼でも同じ機械音ばかり。春も夏もあったもんじゃない、聞こえるのは自動車・自転車のエンジン音だけですよ。気がついてみたらいつの間にか、ほんとうの音がみんな消えてしまったんですね」

成程そういうわればその通りです。

半世紀まえの朝。朝には朝の懐かしい音がありました。雨戸をくる音。井戸で水くむつるべの音。母の朝仕事の下駄の音。季節の雨の音にもそれぞれに特徴があり、蛙の声や虫の音に季節を聞き分けたものでした。

「この世は闇だ」「闇の世の中だ」という「闇」という字は、本当の音が消され閉ざされたことを表す字だと聞いたことがあります。

ゴルフ場周辺に夏がきて、季節の訪れをしらしてくれた蛙の声が聞かれなくなっているのです。ヨーロッパの北の海に、氷がとけてようやく春がやってくると、それを知らせるアザラシの鳴き声がにぎやかだったのに、そのアザラシが昨年一度に3千頭も死んでしまったといいます。

季節が失われ、自然の音が閉じ込められ、痛ましい闇が地球を包んでしまうのでしょうか。

季節の音・朝の音・自然の音ばかりではなくて、人と人との間にも、たとえば「ありがとう」とか「勿体ない」とかの真実のことばが今は消されてなくなつてしまつて、いるのに気付きます。これはまさに「闇」の世ではありますまい。

地球の自然の音を、もう一度ききなお客なれば、地球はつぶれてしまします。自然破壊・地球破壊がいわれはじめていたのかを、問い合わせなおさなけれども、真実のことばとは何であつたのかを、問い合わせなおさなけれども、非行・不倫・離婚など、社会全体どうしてみようもない状態に落ち込んでいます。

そうです。

闇の世に、もう一度、耳をそばだて耳をあてて、真実の声・真実の音を聞きなおさなければなりません。「聞く」という文字は、門に耳をくつけて、闇のむこうにある真実の音・真実の声を聞き取りなさいと教えてくれています。

耳、声ヲマツ。声、耳ニイル。

親鸞さまは、この五箇の闇の世に響いてくださる真実の声ナムアミダブツを、耳そばだてて聞かせていただこうではないかと、「闇の宗教」、浄土真宗をおすすめくださいました方なのです。

彼出石ム云はそうしてはじめられたのです。

どうぞ誘い合ってお参りください。

二月一日 加古川
木上 恒 様
坪木 せと様

葬儀

「このお彼岸の日、ここを西の空にかたむけ耳をすまして如来さまの教えを聞こうではないか。『一切衆生よみな共にここに生きよ』との呼び声のなかで、社会を願つて生きようではないか」

人の人の訴えを聞かれたという伝説も伝えられたのです。

「このお彼岸の日、ここを西の空にかたむけ耳をすまして如来さまの教えを聞こうではないか。『一切衆生よみな共にここに生きよ』との呼び声のなかで、社会を願つて生きようではないか」

太子はですから、みずからもすべてのことに耳をそばだてて聞かれたのです。そうした太子を当時の人々は「聰耳」と呼んでいましたし、一度に八

聖徳太子は、この日本の国が平和であるようにと願いから、如来さまの教え（三宝：仏・法・僧を敬うこと）を取り入れようとした。教区がお始めたのであると思われています。

日本に仏教がわたってきたその頃、既にはじめられています。おそらく聖徳太子がお始めたのであると思われています。

彼出石という行事は仏教の行事です。が、仏教発祥の地であるインドでも、また仏教発達の中国にもおこなわれていな

い行事です。すなわち日本独特の仏教行事です。

春の彼岸会

ひ ん え

一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日																
高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）	兵庫組	「注法松輪ム云」	木上哲氏宅忌明（加古川）	出石組坊守会（福成寺）	坂本広氏宅法事	玉日会（正福寺）	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	結集大会準備委員会	青年僧侶研修会	教区会	藤本健一氏宅法事	合同役員会・彼出石ム云	兼井征夫氏宅法事	西宗寺若様結婚式	教区会	岡野隆氏宅法事	関森松一氏宅法事	高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）	兵庫組	「注法松輪ム云」	木上哲氏宅忌明（加古川）	出石組坊守会（福成寺）	坂本広氏宅法事	玉日会（正福寺）	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	結集大会準備委員会	青年僧侶研修会	教区会	藤本健一氏宅法事	合同役員会・彼出石ム云	兼井征夫氏宅法事	西宗寺若様結婚式	教区会	岡野隆氏宅法事	関森松一氏宅法事	高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）
高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	兵庫組	「注法松輪ム云」	木上哲氏宅忌明（加古川）	出石組坊守会（福成寺）	坂本広氏宅法事	玉日会（正福寺）	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	結集大会準備委員会	青年僧侶研修会	教区会	藤本健一氏宅法事	合同役員会・彼出石ム云	兼井征夫氏宅法事	西宗寺若様結婚式	教区会	岡野隆氏宅法事	関森松一氏宅法事	高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）	兵庫組	「注法松輪ム云」	木上哲氏宅忌明（加古川）	出石組坊守会（福成寺）	坂本広氏宅法事	玉日会（正福寺）	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	結集大会準備委員会	青年僧侶研修会	教区会	藤本健一氏宅法事	合同役員会・彼出石ム云	兼井征夫氏宅法事	西宗寺若様結婚式	教区会	岡野隆氏宅法事	関森松一氏宅法事	高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）	
高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	兵庫組	「注法松輪ム云」	木上哲氏宅忌明（加古川）	出石組坊守会（福成寺）	坂本広氏宅法事	玉日会（正福寺）	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	結集大会準備委員会	青年僧侶研修会	教区会	藤本健一氏宅法事	合同役員会・彼出石ム云	兼井征夫氏宅法事	西宗寺若様結婚式	教区会	岡野隆氏宅法事	関森松一氏宅法事	高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）	兵庫組	「注法松輪ム云」	木上哲氏宅忌明（加古川）	出石組坊守会（福成寺）	坂本広氏宅法事	玉日会（正福寺）	永井五生氏宅法事・坪木信義氏宅忌明	結集大会準備委員会	青年僧侶研修会	教区会	藤本健一氏宅法事	合同役員会・彼出石ム云	兼井征夫氏宅法事	西宗寺若様結婚式	教区会	岡野隆氏宅法事	関森松一氏宅法事	高福寺報恩講	古屋	東海教区連研研究会（名）	基幹運動専門部会（木山）	

出石組法輪会

三月四日（日）午後一時受付

会場 但東町平田 甫福寺

講師 川上教朗先生

連研修了者の研修会です。漏れなくご出席ください。

☆年間会費一千円ご納入下さい。

出石組御同朋総結集大会
寺守族婦人会五代主衣の発表

本多昌子

しばらくの間、出石組寺族婦人会の一員として、会の現況と活動などについて報告させていただきます。

まず始めに、この寺族婦人会が、「出石組坊守会」という名称で発足いたしましたのが、確か昭和二十二・三年ごろのようになります。

そのころは出石郡十四ヶ寺でありましたが、昭和六十年、あの組画変更によりまして、現在は、出石郡と日高町併せて十九ヶ寺となっています。

また、その途中、昭和五十三年九月には、教区に「兵庫教区寺族婦人会」なるものができましたので、それに準じまして出石組でも「坊守会」を改めて「出石組寺族婦人会」と改称したのでございま



主に各寺の仏婦活動の交流や連携、組の活動への協力が話題で、いつも和氣あいの雰囲気です。実は、ここところが私達「出石組寺族婦人会」の一番の誇りであります。

姉妹のなかに、排除や差別があつては願われていきさせていただいては、霧開氣です。実は、ここところが私達「出石組寺族婦人会」の一番の誇りであります。

妹のなかに、排除や差別があつては願われていきさせていただいては、霧開氣です。実は、ここところが私達「出石組寺族婦人会」の一番の誇りであります。

またもう一つの本にはこうも書いてございました。
如来様どこにまします
今現在説法
わたしの目・耳をとおしからだをつきぬけ
いのちをゆさぶって。
ナムアミダブツと

どこでも大きな声で美しい声ではたらいてくださる

如来さま。
日々生きることに苦悩し、刻々死ぬことにおびえている私であります。
私があって、「みんな来い、いっしょに来て」といふとよんでもくださるお名号のなかで、「御同朋の社会」、差別のない暖かな社会の実現を願わざにはいられません。

さて最後に出石組寺族婦人会の、これからどうしても考えてみなければならぬ問題点を上げておきたいとおもいます。

それは、どうしてもご門徒のみなさまのご協力を、せひともお願いしなければならないからです。

さて、その「出石組寺族婦人会」の活動状況でございますが、なんと申しましても、いろいろな活動の基礎をなすものは、坊守の結束であると思ひます。年四回の研修会・懇親会。毎回順番に各寺にお宿をしていたとき、それぞれのご住職のこ講話を頂戴いたしております。打ついつのときも全員が出席しております。



ただ、このだけは考えていきた
いと思います。三つの条件です。
私達がこの三つの条件を満足させると
き、はじめて後継者もできるし若坊守も
育ってくれるのではないかと思うのです。

その第一、私自身がお念仏のなかでい
のち輝いて生きさせていただくこと。た
れからみられても寺の仕事、坊守のくら
しが輝いて見える。すくなくとも坊守と
してのくらしに不平をいったり愚痴をこ
ぼしたりしない。
このことが後継者を育てる第一の条件
です。
次に第二の条件は、そこにお念仏に呼ば
れている「仲間」がいるということです。
具体的には、どんなことでもとことん話
し合えるご門徒という仲間があるとい
うことです。
寺は、本来そういうものです。いつでも
何でも話し合え支え合える、そうしたい
わゆる同行同朋の社会のなかにこそ後継
者も育つのではないでしようか。

第三番目の条件は、坊守同士のスクラ
ムです。ご本願とともに仰ぎ念仏と共に
行していく坊守の結束のなかに、後継者
は入つて来てくれ、育ってくれるのでな
いでしょうか。

この度のこの結集大会に、一番期待を
かけているのは、私達寺族婦人・坊守で
す。何故ならば、後継者の問題一つをとつ
てみても、これから時代これから社会をいき
るには、なんとしても念仏者が
会をいきるには、なんとしても念仏者が
結束、組としての連帯、坊守会・仏社・
婦など組織の結集がかけてはなにもでき
ないと思うからです。
「御同朋の総結集」こそ、ながんずく出
石組寺族婦人会のあたらしいスタートラ
インです。

農業後継者の問題も深刻ですが、寺の
跡継ぎ、若坊守の育成となると、より深
刻なような気がいたします。
これという決め手はありません。打つ
手まったく手詰まりの状態です。